

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>(1)NGN 光ファイバによる通信を人口カバー率 100%にしようというのであれば、ユニバーサルサービス基金からの充当も不当ではない。ただし、NTTの都市部のフレッツネクストユーザにも加入電話同等の負担を求めなくてはならない。NTTは公衆電話等、自らの商用に供する電話および NGN サービスについても、自らの出費でユニバーサルサービス費用を払わなくてはならない。</p> <p>(2)電力会社に電気を通していない電線があれば、NTTドライカッパーと同じ基準で他事業者に解放。高圧電線塔の頂上部を、WiMax や LTE 事業者の基地局設置に解放。何10メートルもある最も背の高いものを使い、一気に無線高速通信エリアを広げる。障害物が少ないので、変調方式を一気に 256QAM に上げる。</p> <p>(3)光、同軸に頼りすぎず、ラストワンマイルは無線のリピーターを活用。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>(1)電気通信事業で一番の手間と金がかかるのは工事であり、NTT といえど、光ファイバ設置部門を分離させるのは適切でなく、むしろ、そのような組織論は、自前で回線を敷設してきた他事業者の意欲をそぐ。ただし、NTT にはファイバーを廉価で解放する義務を継続して課すべき。また NTT 納入用ファイバのカルテル事件にかんがみ、ユニバーサルサービスに供する部材は抜き打ち調査や罰則強化の対象とする。</p> <p>(2)いくら競争が激化し価格が下がっても、使わない人は使わない。すでに市場は飽和に近づきつつある。状況を打破するには価格下落よりも、付加価値の高いコンテンツを用意することが有益。インターネットでは手に入らない特殊コンテンツを、NTT や他事業者が提供できることとし、通信と放送・出版・ゲーム・行政サービスの融合を進めることが必要。また、インターネット公衆網を通すことがそぐわないテレビ会議などを促進(病院の医師との会話など)。</p> <p>(3)電力会社の電柱、NTT の電話柱の原則廉価解放で、他事業者が容易に配線を行えるようにすべき。一部外国(ドイツなど)のように、柱など使わず、耐久性の高い建物の壁や屋根を伝って配線を進める方式も許可。高速道路資産の配線目的での廉価解放。</p>

	<p>(4)トンネル方式での IPv6 接続は NTT の都合による費用をプロバイダやユーザに押しつけるものであるから、NTT はトンネル式企業には端末設備費用充当をしなければならない。そうでなければ、ADSL の実質モデム無料という市場価格と勝負できない。</p> <p>(5)通信費は既に家計で馬鹿にならない金額に上っており、携帯電話の料金が高止まりしていることが、高速インターネットにまわす金が足りない原因である。よって、いわゆる電波税を下げれば、自動的に高速インターネットに回す金ができる。あまった電波税はユニバーサルサービス基金に充当。</p>
--	---